



京都橘の国語攻略講座

2023年8月

講師：青木 新吾（代々木ゼミナール）



2023年度 京都橘の国語攻略講座

【傾向】

京都橘大学の入試の国語は、現代文（評論）と国語常識の大問4題で構成される。そのすべてにおいて、標準的な学力がいかに定着しているかが試されるようになっている。

文章題については、高校3年生であれば読んだことがある、ないしは、読めるであろうものが選択され、設問は、接続詞、空欄補充、傍線部説明、内容一致など、記述以外の私大客観マーク形式における全てのパターンが用意されている。本文全体を余すところなく問う形となつており、キチンと文章を読むことが要求される。国語常識については、文学史、四字熟語、漢字まで、隅々まで問われる。

試験時間は選考方法によって違いがあるので「入試ガイド」をよく確認すること。過去問をしつかり分析し、適切な学習を行っていれば、現代文と国語常識の全てに取り組むには十分な制限時間であり、一つ一つにじっくりと向き合うことができるだろう。

【対策】

大切なことを記すと・・・

学校の教科書に載っている文章は読めるようにしておこう。授業で扱われなかつたものに関しては、時間を作つて読んでみてほしい。論理展開をしつかりと追いかけながら、分からぬ語句が出てきたら、必ず辞書を引き、その場で頭に意味を叩き込んでおこう。

過去問をメインにして演習に取り組もう。加えて、「実践演習現代文 標準」（桐原書店）や、「大学入試 全レベル問題集 現代文 3 私大標準レベル」（旺文社）など、標準的な問題集を1冊は仕上げておきたい。その際にも、出てきた漢字や語句について、分からなければ、その都度辞書をひいて覚えていくこと。

文学史については、薄い文学史の問題集、さらには「国語便覧」を必携したい。数ある文学作品は全て読めるものではないが、「国語便覧」は、著名な作家の有名な出典がコンパクトにまとめて説明されている。問題集と合わせて、明治以降の作家のページは、ことあるごとに読み込んでいこう。

京都橘大学の国語入試で問われる内容は、例えば、生きていく上で「漢字」から逃れることはできないよう、入学のためだけでなく、今後的人生でも役に立つことが多い良問である。これを機に、これから生きていく上での糧を身につけるきっかけとしてほしい。

各設問に対する「具体的な」対策は、この後の授業で・・・

I 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。（2022年11月16日実施 学校推薦型選抜）

【1】いまわれわれの周りには死が氾濫し、日常化しています。未曾有の大震災によって瞬時に失われた何千何万もの命、制御不可能なまでに暴走してしまった原発から発せられる放射能によって日夜脅かされつづける膨大な数の命。しかし、かりにそういう破局によつてもたらされた【A】死がなかつたとしても、死はやはりわれわれの日常の一部であることをやめません。個人にかぎつてみても、このところ母をはじめとする何人かのかけがえのない肉親や恩師、それに友人たちの死を経験しました。少しさかのぼれば、わが子の死産や教子の自殺などというやりきれない死もありました。そうしていまでは自分もまたやがて彼らと同じようにいすれば死んでいく身であることを思い知られています。【あ】こうしたことはなにも私だけにかぎつたことではありません。それは例外なくだれの身にも降りかかること、避けられないことです。だからこそ人は問いつづけてきたのです、死とは何かと。（①）

【2】しかし皮肉なことに、その事態のまつだなかに立つ当事者である死者はそれを問うことができません。【い】人は生きるかぎりにおいて死を問うほかありません。しかし生が死を問うとはひとつパラドックス以外の何ものでもありません。死は生にとってはどうにも声の届かぬ「彼岸」だからです。それはそもそも生の側からは語りえないものと言うことができるかもしれません。こうして死はわれわれの日常において不斷に遭遇する近しい出来事でありながら、基本的に「語りえぬもの」として遠ざけられ、忘れられていくことになります。それは多くの場合「諦め」という名のもとにおこなわれています。処世のわざとしては、じじつそうするよりないのかもしれません。しかし私にはこの自明の事実がときには疑問になることがあります。本当に死は語りえないものだろうか、【う】われわれはこの生死のパラドックスに耐えて、いったいどこまでそれを語る努力をしてきたのだろうかと。

【3】少し理屈をこねてみましょう。分析哲学の元祖のようにあつかわれているウイートゲンシュタインの「論理哲学論考」の中に「語りえぬものについては沈黙しなければならない」という有名な言葉があります。この言葉はその昔から伝わる「オッカムの剃刀」と呼ばれる原則、つまり「説明のためには必要以上の仮定を立ててはならない」と同じように、いまや合理的に思考するための箴言のようなものとして出回っていますが、しかしこの言葉はけつして「語りえぬもの」を少しでも「語りうるもの」にしようとすると人間の努力そのものまでも否定しているわけではありません。知の進歩はほかならぬその「語りえぬもの」へのあくなき挑戦にこそあるのですから。われわれはむしろこう言うべきでしよう。ほかならぬ語りえぬものこそ知の温床であると。ただ語りうるもののみを語るというのであれば、それは結局のところ発見も何もしないわかりきった同語反復をくりかえす以外ありません。「ウイートゲンシュタインに逆らつて、語りえぬものをこそ語るべきだ」と述べたアドルノはさらに、こうも言っています。

【4】語りえぬものへの挑戦を【B】にもつとも象徴しているのは「atom」という言葉でしょう。日本語では「原子」と翻訳され、輸入されているわけですが、これはもともと否定の接頭語「a」と動詞の「topew」からなるギリシャ語の「atopos」に起源をもち、「(これ以上) 分割されないもの」ほどの意味でつかわれていた言葉です。あえて語源に即して翻訳するなら、「不分子」とでもなるところでしょうか。これを特殊な哲学用語としてつかつたのがイオニアの自然哲学者デモクリトスであるとは、哲学史の教科書などでもよく触れられていることです。（②）

【5】注意したいのはこの言葉の一部をなす否定の接頭語「a」です。これは後のヨーロッパ語、たとえばラテン語の「in」やドイツ語の「un」などに転換されて引き継がれていくわけですが、「atom」ではそのままギリシャ語の原形が残つたことになります。いざにせよ、ヨーロッパ語のなかにはこの「a」「in」「un」を接頭語にもつ言葉が少なくありません（ちなみにこれらを日本語で表現するときは「不」「否」「非」「未」「無」「脱」などといふ表記がそのつどの文脈におうじて適宜つかわれているようです）。（③）

【6】周知のように「atom」すなはち「原子」は、今日ではもはや「分割不可能なもの」ではありません。それどころか、二〇世紀の物理学の劇的な展開が示したように、それは次から次へと分割されつけ、ついにはその「物質」としての【C】さえもが疑問に付きました。周まで進んだのでした。またその中身の構造が解明されると同時に「原子力」などという不吉でやつか的なものまで生み出しました。つまり、初めはたんに「分割されないもの」とネガティヴにしか表現できなかつた概念が、その後の知識的挑戦によつてそのネガをポジに変えられた典型例がここに見られるのです。日本語の「原子」という表記がヨーロッパ語のよくな否定形をもたないのは、それがポジに転換して以後の輸入概念であることを示しています。

【7】この「atom」によく似た言葉にもうひとつの「individual」という言葉があります。こちらはラテン語が起源となつていますが、文字どおりにはこれも「分割されないもの」で、言葉の組成上は「atom」と同義になります。ところが、同じような語源的意味をもながら、こちらは「atom」とは別の文脈であつたわざきました。すでに述べたように、「atom」が物理学を中心とする分野での内容の【D】と、その結果としてのネガからポジへの変転を経験したのだとすると、「individual」のほうは、どちらかというと社会科学、生物学あるいは哲学といった分野での進展を見たのでした。おおまかに言えば、日本語で「個人」と訳される場合は社会科学的文脈が、「個体」と訳される場合は生物学的文脈が問題になるようですが、哲学ではどちらの訳語もつかわれているようです。明らかにこの概念もま

た当初の「分割されないもの」という否定的表記を超えて、ポジへの転換を果たした概念です。何んに今日のわれわれは「individual」という言葉を「分けられないもの」などというネガティヴな意味合いではつかっていません。

それは人間存在の原点となるようなポジティヴな何ものかとしてとらえられているのではないでしようか。日本語の「個人」という翻訳語もまたその転換後の産物ですから、

初めからポジティヴな意味合いを含んだ「固」をツクリにもつ「個」というような表記が選ばれているのです。(④)

【8】興味深いのは、この「分割されないもの」という原義をもつた「原子」と「個人／個体」がはからずも近代という時代になつて並行してその概念の進展を見たということです。類似の表記構造をもつ二つの言葉が、かたや物質なし自然のベースとして、かたや人間ないし社会のベースとして、いわばグランドセオリーの基本概念としてつかわれていったこと、そこに「近代的パラダイム」と呼ばれるものとの思想的ないし哲学的特徴があると言つてもいいでしよう。言い換えるなら、原子という表象を要素とする機械論的な思考モデルがそのパラダイムの内容をなしていると言つていいかもしれません。(⑤)

【9】思想や理論の歴史をこういう観點からふりかえつてみたときに、「無視して通り過ぎ」すとのできない際立つた例がまだひとつあります。それがフロイトの切り開いた精神分析という分野です。精神分析は基本的には「Bewußtsein 意識」と「das Unbewußte 無意識的なもの」を区別することに始まります。注意してほしいのは、フロイトは「意識 Bewußtsein」の対概念につけして「Unbewußte」という表記を当てていないことです。日本語で無造作に「無意識」と訳されてしまふことが多いのですが、原語はあくまで un-という否定を意味する接頭語のついた形容詞形「unbewußt」を名詞化した「das Unbewußte」つまり「意識されないもの」または「無意識的なもの」です。これはいまでは精神分析の用語として定着していますが、この表記法からも推察できるように、フロイトは当初これを意識のネガとして想定し、そこから自らの理論形成を開始したということを忘れてはなりません。一言でいってしまえば、フロイトという人はつねにネガティヴにしか表記できないものの関心を示し、そこにポジとしての分析や理論をうち立てようと格闘しつづけた人だと言えます。フロイトがドイツ語の「unheimlich（不気味な）」という、どちらかというと漠然とした気分を表わす、しかもやはり un-という否定の接頭語を冠した言葉に特別な関心を寄せたことなどもその一例といえます。

(出典 小林敏明『フロイト講義（死の欲動）を読む』(せりか書房) なお、問題作成上、一部省略してある。)

問1 空欄あえに入れるのに最も適当なものを、それぞれ次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

- | | | | |
|---------|-------|-----|-----|
| 問2 空欄 A | D | A | E |
| ① 空欄 | ② 例外的 | ① あ | ② う |
| ① 歴史的 | ② 現実的 | ① い | ② う |
| ① 合理性 | ② 分析的 | ① う | ② う |
| ① 包括化 | ② 構造化 | ① い | ② う |
| ① 構造化 | ② 象徴化 | ① う | ② う |
| ① 象徴化 | ② 先鋭的 | ① う | ② う |

- ところでも
なかでも
むろん
つまり
ちなみに
たとえば
ただし
さて
したがつて
むしろ
- しかし
だから
といつても
ところでも
ところでも
- なぜなら
あるいは
あるいは
なぜなら
- ところでも
といつても
ところでも
ところでも
- なぜなら
あるいは
あるいは
なぜなら

問3 本文中、次の一文が省略されている。(①)～(⑤)のどれに入れるのが最も適当か、番号をマークしなさい。

「」では、どういう言葉がそれに当たるかをいちいち数えあげる作業は省きますが、大事なことは、こうした否定の接頭語を冠した諸概念のなかに、その後ド拉斯ティックにその意味内容を獲得し、さらにそれを充実、変転させていったものが少なくないという事実です。

問4 ――線「フロイトの切り開いた精神分析という分野」の説明として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

【1】「意識」の対概念である「無意識」に人間の実存的本質を求めたのが、フロイトの精神分析である。

【2】「意識」の外部に広がる人間存在の暗部、その「不気味」さを解明しようとしたのが、フロイトの精神分析である。

【3】「意識」のネガとしての「意識されないもの」を起点として理論を打ち立てようとしたのが、フロイトの精神分析である。

【4】思想や理論の歴史にあってこれまで素通りされていた人間の「無意識」にはじめて焦点を当てたのが、フロイトの精神分析である。

問5 本文の内容に合うものを、次の二つ選び、番号をマークしなさい。ただし、解答の順序は問わない。

【1】「atom」とはもともと「」以上分割されないもの」という語調を内包する言葉であつたが、物理学の発展によつて死語になつて

しまった。

(2) 死者はすでに死んでいるがゆえに死とはなにかと問うことができず、ここに生者しか死を問うことができないというパラドックスが成立する。

(3) 「individual」は、社会に対する最終的な責任単位としての個人という意味を持ち、古代ギリシア哲学の影響下で形成された概念である。

(4) 西洋的思考は自然科学、人文科学を問わず、これ以上分割しえないとされる概念を母胎として体系化される傾向にあり、この点が東洋的思考とは異なる。

(5) アドルノは、言葉にならない現象に対し新しい言葉を付与する重要性を主張し、観念の体系化こそが「認識のユートピア」であると説いた。

(6) ウィトゲンシャインは、語ることのできないものを前に沈黙することを説いたが、語りえぬものを語ろうとする努力までも否定してはいなかつた。

[II] 次の1～5の説明に当てはまるものを、それぞれの選択肢の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

- | | |
|--|---|
| 1 福沢諭吉の著書。
① 『文明論之概略』
② 『経国美談』
③ 『西国立志編』
④ 『西洋紀聞』 | 2 尾崎紅葉の作品。
① 『風流仮』
② 『照葉狂言』
③ 『不如帰』
④ 『多情多恨』 |
| 3 永井荷風の作品。
① 『パリ燃ゆ』
② 『ふらんす物語』
③ 『アメリカ素描』
④ 『倫敦塔』 | 4 川端康成の作品。
① 『春屋』
② 『吉野葛』
③ 『古都』
④ 『旅愁』 |

- 5** 文学史上、戦後派に属すると言われる作家。
① 太宰治
② 大岡昇平
③ 庄野潤三
④ 直木三十五

[III] 次の空欄□に二を入れるのに最も適当なものを、それぞれの選択肢の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

- 1** □ツであっても心に響く言葉はある。
① 不言実行
② 片言隻語
③ 言語道断
④ 枝葉末節

- 2** パートナーとはいえ、□テであると感じれば対話が必要である。
① 公平無私
② 同床異夢
③ 風光明媚
④ 豪放磊落

- 3** 宇宙の□トを理解することはできない。

- ① 泰然自若
② 白砂青松
③ 縦横無尽
④ 森羅万象

- 4** 彼女の勤勉さや□ぶりを知らない人は誰もない。
① 博覽強記
② 離合集散
③ 一衣帶水
④ 不易流行

- 5** 人の行いは□ニをもって報いられるとは限らない。

- ① 信賞必罰
② 勇猛果敢
③ 一騎当千
④ 不即不離

[IV] 次の1～5の傍線部と同じ漢字を含むものを、それぞれの選択肢の中から一つ選び、番号をマークしなさい。

- 1** 阪神タイガースがゲバヒヨウを覆して首位に立つた。

- ① ヒヨウノウをねん挫部分にあてる。
② 彼は本当にヒヨウジョウ豊かな人だ。
③ 一ヒヨウの重みの解消を目指す。

IV			III			II			問5	問4	問3	問2	問1	I 解答
1	1	1				2、 6	3	3	A			1	3	
④	②	①												
2	2	2							B	い				
③	②	④												
3	3	3							C	う				
④	④	②												
4	4	4							D	え				
①	①	③												
5	5	5								4	4			
③	①	②												

④ お店のヒヨウカを高く保つ工夫を考える。

2 思い通りにいかない、生活が苦しいさまをフニヨイという。

① 喧嘩がニンジョウ沙汰にならなくてよかったね。

② 「ニヨウボウ」と「奥さん」と「妻」の使い分けを考える。

③ 弟がトツジヨ、陶芸家になると言い出した。

④ 京都市内でもマイコさんを見るることは少なくなった。

3 カンワキユウダイ、本題に戻ろう。

カソカクを開けて並ぶ。

① 弟がサインカンの高校に合格した。

② カンランセキで番組の収録に参加する。

③ 商店街がカソサンとしている。

4 世の中はエイコセイスイを常とする。

資源のカツは深刻な問題である。

コウ常的な成果を期待されている。

④ 権力をコジする。

チヨウコウゼツをふるう彼を止めることはできない。

5 イベントをきちんと終えるためのゼンゴサクを練る必要があるだろう。

冒険の末、ゼンジンミトウの地にたどり着いた。

小説家を志したのは、ジュウゼンから創作活動に夢中であつたからだ。

サイゼンの手段を考える。

急速ことのない、少しずつ進むゼンシンテキな改革が必要だ。